

英語科 授業づくり講座 No.4

【授業研究会】 10月31日 南国市立香南中学校

発行
令和2年
1月23日
中部教育事務所



授業者 T1 笠井由加里教諭、 T2 北 裕子教諭
T3 豊永信子主幹教諭、ALT Ms. Cherish Warden
(南国市立香南中学校)

第1学年 PROGRAM 7 「The Wonderful Ocean」 開隆堂

単元計画 (全9時間 8/9時間目)

- 第1次 目標の設定⇒基礎的な知識・技能の習得
単元ゴールを理解し、学習の概要をつかむ
- 第2次 目標実現のための言語活動⇒言語活動の見直し
- 第3次 目標実現のための言語活動⇒振り返り
「読み手を意識して書く」(本時)
パフォーマンステスト

準備物
フィードバック・シート
ワークシート
語順カード 等



CAN-DO リスト形式の学習到達目標: 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。
単元目標: 文字や符号を識別し、語と語のつながりや区切りに注意して正しく書くことができるようにする。関心のある事柄について、正しい語順を意識したり、適切な語句を用いたりして書くことができるようにする。

授業の概要

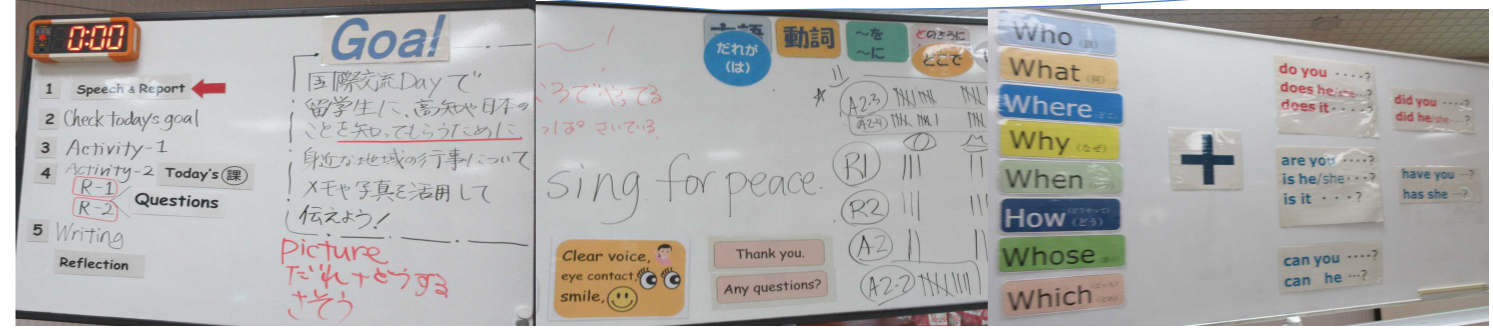
導入では前単元で作成した人物紹介を再度活用して発表させ、聞き取った内容をペアで互いにリポートし合い、書いてまとめることで既習表現の活用と定着を図った。言語活動では自分で選んだ地域の行事や活動について、まずペアで伝え合ったあと、参観者にも伝えに行った。中間評価ではALTとJTEが態度面と言語面・内容面に分けて評価を行い、具体的な生徒の姿を取り上げて問い返したり板書に残したりするなど明示的な指導を行った。50分の授業時間の中で言語活動、指導(中間評価)、言語活動・・・と十分に英語を話したり書いたりする時間を与え、生徒の見方・考え方を鍛えながら、「話すこと(やり取り)イ」「書くことイ」の資質・能力の育成は目指した。

本時の展開

活動内容	指導上の留意点
1 Speak and Report, Review 代表の人物紹介を聞く。聞き取った内容についてペアでリポートし合い、書いてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を思い起こさせる。リポートすることで3人称の主語を用いて客観的に事実を伝える力を養う。 共通でミスしている内容などの共有を行う。
2 Activity 1 自分のトピックについてメモを用いてペアで紹介し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 相手に質問されたことは足りない情報としてメモに加筆させる。
3 Activity 2 Speaking 1 参観の教員に紹介する。 中間評価① 「言いたくも言えなかったこと」やコミュニケーションポイントについて考える。 Speaking 2 中間評価を意識して別の教員に紹介する。 Sharing 1 良い友達の姿や表現例を共有する。 中間評価② 友達の表現例を基にミスに気付いたり内容を深めたりする。 Speaking 3 中間評価を意識して別の教員に紹介する Writing よりよく伝わる紹介内容を考えながら書く。 Sharing 2 最終の紹介内容を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> 質問されたり知り得たりした情報はメモをさせる。 中間評価①では JTE が言語面、ALT が態度面で指導を行う。 メモや中間評価の内容はその後の活動に活かす。 中間評価②では JTE が言語面、内容面で指導を行う。生徒の表現に問い返したり、ホワイトボードに書き出したりして明示的に指導を行う。 ライティングではただ話した内容を書くのではなく、「伝えたいという気持ちを込めて」とめあてに戻り、推敲しながら書くように促す。
4 振り返り 本時の評価規準を基に振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> メモへの加筆による内容のふくらみ、会話を続けようとする態度を中心に肯定的にコメントする。



板書



常に表示されている語順カードや疑問詞カード、生徒から出された表現例等がそれぞれの思考を支え、見方・考え方を成長させます。

授業づくりのポイント ~山田誠志教科調査官 講話より~



香南中のすごいところ! *技能統合・領域統合は当たり前。書く力の育成が目標だからと、書くことだけをやっていない。話す力の育成が目標だからと話すことだけをやっていない。***帯活動が充実している。** 帯活動は計画しやすく効果が上がりやすい。***複数の単元を繋げて、1学期、2学期というスパンの中で資質・能力を育成しようとしている。** *目的・場面・状況等を明らかにすればするほど子供の「見方・考え方」が働くということを大事に授業づくりを行っている。***文法の仕組みや意味、構造だけでなく、使用場面も大切にしている。** ...相当に良い取組を行っている。県下に広めるべき指導である。

言語活動の量を十分に確保することは絶対!

子供達にとって英語を使う必然性があまりない日常生活の中で、英語を話す時間を授業の中で十分に確保することは絶対に必要なこと。たくさん話してたくさん書く、たくさん聞いてたくさん読むこと。その上で意図的な指導が求められる。

意見と理由は必ずセットで!

"I like swimming. It's fun." Because がなくても It's fun.が理由。理由があることで話し手のパーソナリティや相手の心を捉えることができる。どうしてそう思うのか相手を納得させることができる。小学校でも同じ。論理的思考力のベースとなる部分を大切にしたい。

言語活動は、活動→指導→活動が大前提!そして指導(中間評価)を充実させる!

*指導の場面では子供の考えを引き出し、引き出した気付きや考えは黒板に書くこと。例えば「話し手に反応することが大事」といったような子供から出た意見をそのまま可視化するのではなく、どんな言葉で反応するとよいか英語で板書する。***伝えたい内容を英語でどう言うのか考えることを学習指導要領では「見方・考え方」が働いていると言う。**それを働かせる為の明示的な指導をどうするか。パラフレーズは有効。言いたいことは子供達それぞれにあるので、それらをどう英語で表現すれば良いかを汎用性を持たせて指導する。「出だしは We? I? It? どれで言えそうかな」と考えさせたり「2文に分けると言える?」と考えさせたりして、パラフレーズのコツを子供と共有する。ペアやグループで表現を考えさせる方法もあるし、中間評価で誰かの質問を使ってそのコツを一緒に押さえる方法もある。それを自分事として捉えさせ再構築を促す。指導は教師の腕の見せどころ。指導力を上げることが肝要。

再構築を促すときは言語面と内容面の両方の視点で!

1 単位時間の中で両方を指導できないことも多い。単元のまとまりで指導すること、長いスパンで指導すること。

教科会による授業省察 再構築を促す為の明示的な指導方法や、言語活動がやりっぱなしになったり説明がくどくなったりすることについて悩んでいる。今日は情報を伝えたり説明したりする為に、場面設定や5W1Hの誰が何をするか等の視点を与えて内容を考えさせ、語順カード等も示すことで日本語に引っ張られずに英語らしい表現で伝えられるようにした。中間評価では、子供の見取りとそれをどう評価して再構築へ繋げさせるかが悩みどころだが、聞き手からもらった質問をウェビングに書き足すことで推敲に活かすよう指導した。シェアリングの際は、使わせたい表現や語彙を使っているような目指す資質・能力に近い生徒をモデルとして選んだ。最後に書くときに改めて本時のめあてに触れたのは、以前の講座で山田調査官から指摘を受けたところ。生徒のさらなる思考を促すため再度めあてに立ち返った。充実した言語活動の為には活動後の指導が大変重要。とても難しいが非常に大事だと思っている。教師の頑張りどころと捉え日々研究を続けている。

